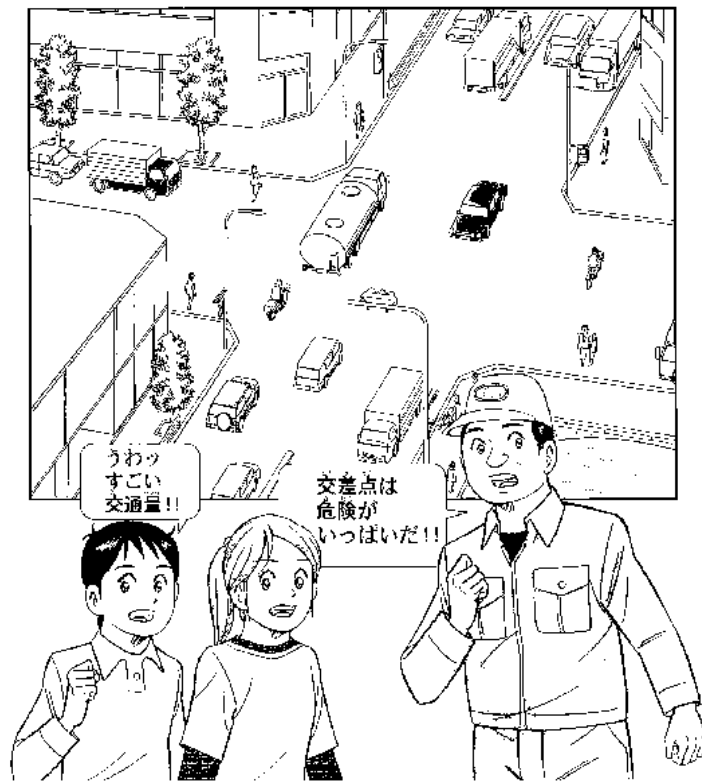


交通危険予知訓練 研修会

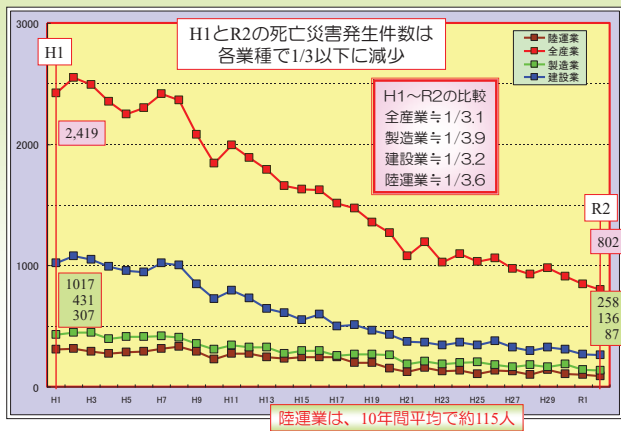
テキスト



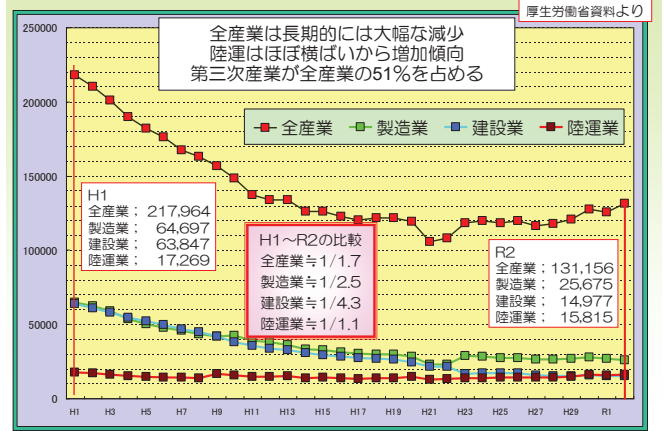
陸運労災防止協会 埼玉県支部

チーム名		氏名	
------	--	----	--

労働災害発生状況（死亡者数）

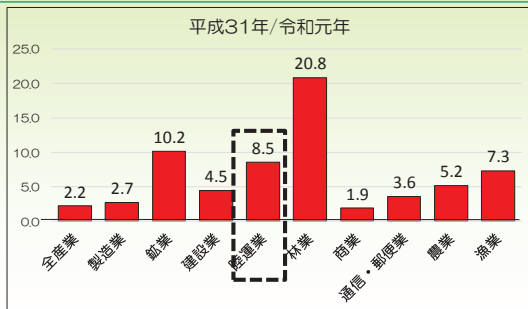


全国の労働災害発生状況（死傷者）



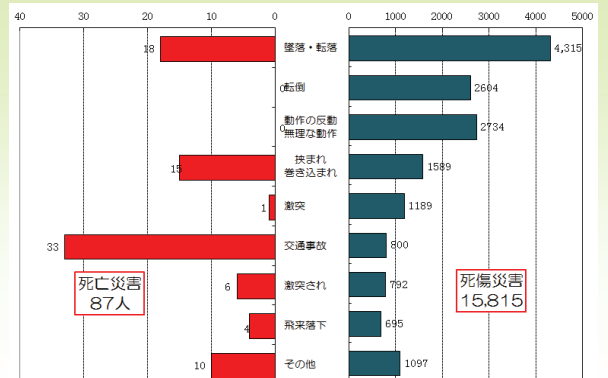
令和元年 業種別 死傷年千人率

年千人率とは、労働者1000人あたり1年間に発生する死傷者数を示す。
 年千人率 = (1年間の死傷者数 / 1年間の平均労働者数) × 1000



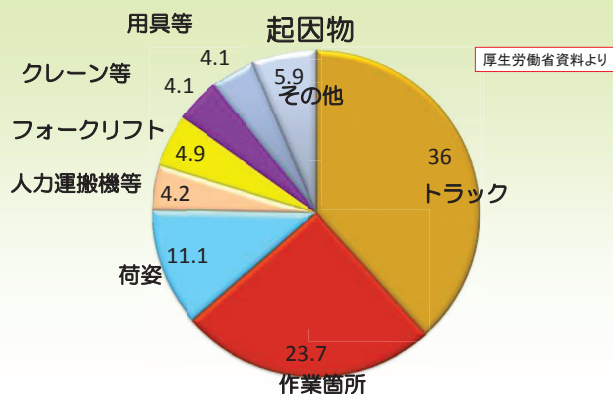
全産業：5,710万人、製造業：995万人、建設業：338万人、陸運業：181万人

陸運業労働災害発生状況（R2）



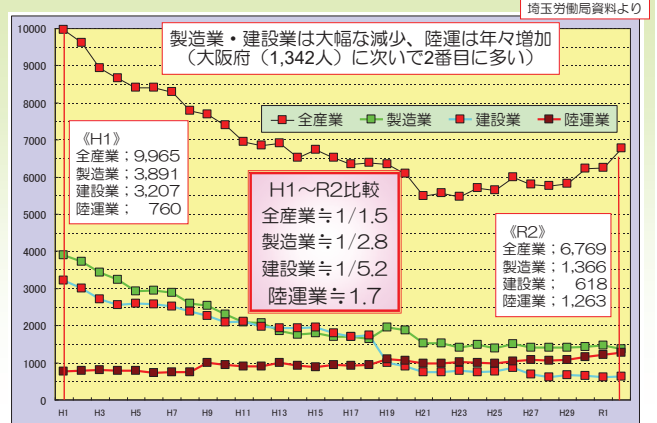
(注)厚生労働省安全課の資料による。

陸運業の事故の起因物（R2）



厚生労働省資料より

埼玉県の労働災害発生状況（死傷者）



埼玉労働局資料より

陸運業における労働災発生状況

『令和2年の死傷災害15,815件の発生で増加傾向』

- ▶ 発生件数の70%は荷役作業時に起きている。
〔15,815×70%=11,070件〕
- ▶ そのうちの8割以上は貨物自動車運転者が被災している。
- ▶ 荷役作業時の労働災害の発生場所は、70%が荷主・配送先・元請事業者（荷主等）で発生している。
〔11,070×70%≒7,750件〕

厚生労働省が、貨物自動車の運転者などが行う荷役作業における労働災害の防止を目的とした、ガイドラインを策定。
《陸運事業者と荷主等が協力して荷役作業時の災害を防止》

基本的な人力作業について

- ① 荷役作業を行う前に、貨物自動車周辺の床、地面の凹凸等を確認すること。また資材等が置かれている場合には、整理整頓してから作業を行うこと。
- ② 貨物自動車の荷台への乗降りは、昇降設備を使用すること。
- ③ 荷台の上で作業を行う場合は、荷台端付近で背を荷台外側に向けないようにし、後ずさりしないこと。
- ④ 墜落・転落の危険がある作業においては、墜落時保護用の保護帽を着用すること。
- ⑤ あおりを立てる場合は、必ず固定すること。
- ⑥ 不安定な荷の上ではできる限り移動しないこと。
- ⑦ 荷締め、ラッピング等の作業は、できる限り地上での作業にすること。

陸運業の荷役作業現場で発生している問題点

- ① トラック荷台への昇り降りの際に、昇降設備がないので、荷台から飛び降りてケガをした。
- ② 発荷主の依頼で着荷主に荷物を運んでいるが、着荷主側で荷台からの荷卸し作業を強制的にさせられている。
- ③ 物流センターや倉庫では、派遣や請負で働いている作業員が多く安全管理が不十分な状況で、フォークリフトに衝突された。
- ④ 改善を求めようとしても、誰に言ってよいか窓口が不明。
- ⑤ いろいろな荷主先に行くが、安全教育の必要性を感じた。
- ⑥ 荷主先の設備の老朽化で、床が壊れケガをしたので荷主に訴えたが改善されない。
- ⑦ 荷主先等のトラックヤードへの昇降が梯子のため、滑ってケガをする恐れがある。

陸上貨物の9割以上がトラック

トラックを運転するとき

トラックの物流は、今や日本経済を支える重要な柱であり、物流がストップすれば日本経済に重大な影響を与えることを認識してください。

トラックの物流の重要性を理解していないと

簡単に事故を起こし、経済活動に支障をきたす

渋滞中の車列にトレーラが突っ込む

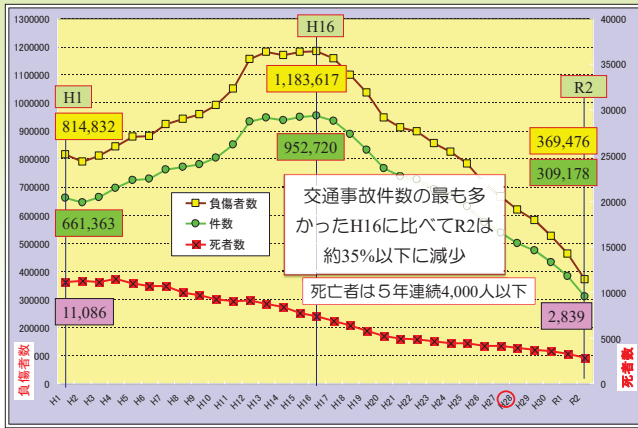
平成14年8月10日午前5時40分東名阪自動車道下り線で、居眠り運転の大型トレーラが渋滞中の車列に突っ込み7台が絡む玉突き事故。11人が死傷。
(事故前4日間の睡眠時間は、SA等で16時間程度)



交通事故



交通事故の発生状況



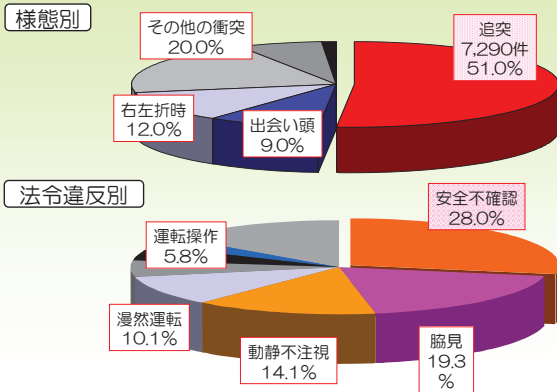
第1当事者交通事故発生状況

H29

当事者区分	事故発生件数		死亡事故件数		死亡/事故	
	件数	構成比	件数	構成比		
自動車	事業用	17,986	3.8%	290	8.0%	1.61%
	自家用	61,984	13.1%	575	15.8%	0.93%
	小計	79,970	16.9%	865	23.8%	1.08%
二輪車他	事業用	14,669	3.1%	54	1.5%	0.37%
	自家用	334,349	70.8%	1,906	52.5%	0.57%
	小計	349,018	73.9%	1,960	54.0%	0.56%
自動車計	428,988	90.9%	2,825	77.8%	0.66%	
二輪車他	43,177	9.1%	805	22.2%	1.86%	
合計	472,165		3,630		0.77%	

事業用貨物交通事故件数

H29



交通労働災害防止のポイント

《交通労働災害が発生しやすい主な要因》

- ① 安全に対する組織の関与が低い場合
- ② 休息期間が8時間未満の場合
- ③ 勤務前24時間の総睡眠時間が5時間以下の場合
- ④ 運転以外に荷役作業毎回実施する場合

《交通労働災害が発生しにくくなる主な要因》

- ① 休憩時間の定めをした場合
- ② 運転者に対する教育項目が増加する場合
- ③ 安全意識の高揚のための活動が増加する場合

交通事故の現状

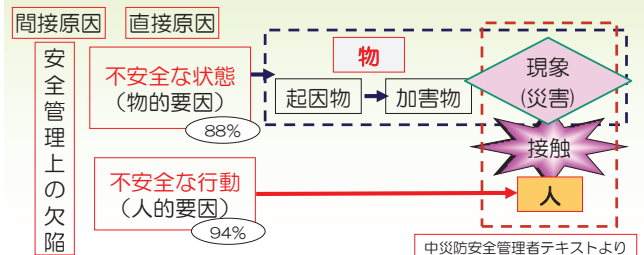
交通事故統計年鑑

事故死亡率	事業用貨物自動車の事故死亡率は約2.1倍 (事業用貨物1.61% : 全体 : 0.77%)
事故類型別	追突51% + 出会い頭・右左折時21% = 72% (交差点相互が約87%・人対車両が約10%)
法令違反別	安全不確認28% + 脇見19.3% = 48% (貨物自動車は、脇見事故が多発)
道路形状別	交差点と交差点付近で54%以上が発生
時間帯別	交通事故多発時間：通勤時間帯・薄暮時。 死亡事故は午前0～6時に多発。
道路種類別	国道24%・主要地方道27%・市町村道44%

労働災害の発生のメカニズム

交通労働災害とは、「道路上及び事業場構内における、自動車及び原動機付自転車の交通事故による労働災害」と定義されている。

労働災害の直接原因のほとんどが「不安全な状態（物的要因）」「不安全な行動（人的要因）」で発生する。

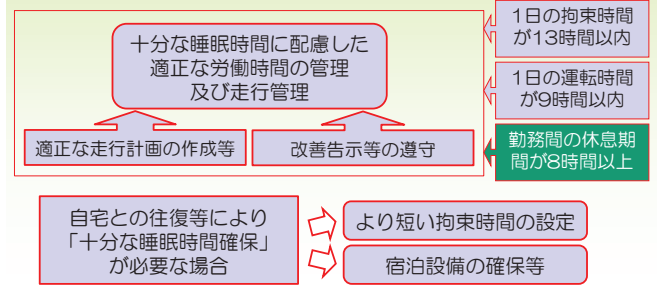


不安全な状態・不安全な行動とは

機 械	<ul style="list-style-type: none"> ● 点検整備がなされていない状態 ● 運転席の欠陥（整理整頓） ● 車種・器具・用具選定の誤り。
積 荷	● 荷の積み方・固縛・保定用具の欠陥
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 運転者の服装・履物・保護帽の欠陥 ● 駐車車両による死角 ● 歩行者・バイク等による要因 ● 気象条件による要因
行 動	<ul style="list-style-type: none"> ● 運転者の疾病・疲労・飲酒・睡眠不足 ● 合図・確認なしに車を動かす（脇見運転も含） ● 青信号以外の走行（信号無視） ● 速度超過（速度違反）・安全不確認（省略行為） ● 最大積載量以上の積載（過積載）

適正な労働時間等の管理及び走行管理

- ① 改善基準告示等を遵守した走行計画の作成。
- ② 運転者の睡眠時間等に配慮した労働時間管理及び走行管理。
- ③ 運転者の移動に要する時間等を考慮した必要な措置



改善基準告示（国土交通省）

改善基準告示について 国土交通省

トラックドライバーの労働時間を定めた基準(改善基準告示)の概要

- 拘束時間: **1日13時間まで**
(16時間まで延長可。ただし15時間超は週に2回まで)
- 休息期間: **1日継続8時間以上**
- 運転時間: **2日を平均して1日9時間まで**
- 連続運転時間: **4時間毎に30分以上の休憩を確保**
(1回につき10分以上で分割可)

睡眠不足が心身に及ぼす影響

- 集中力の低下
- 判断力の低下
- 反応速度の低下
- 記憶力の低下
- イライラ・怒りっぽい
- 体調不良



運転に不可欠な能力が低下し、交通事故の発生する恐れが約4倍以上高くなる

自動車運転者を使用する事業者に対する監督指導等の状況（H31・R1）

区 分	労働基準 関係法令 違反	改善告 示違反	改善告示違反事項				
			最大拘束 時間	総拘束 時間	休息期間	連続運転 時間	最大運転 時間
トラック	82.9	60.2	44.7	38.1	33.1	28.7	18.2
バス	76.8	50.0	29.3	32.1	11.4	13.4	8.5
ハイタク	91.3	37.8	26.0	21.1	6.8	0.6	—
その他	77.6	40.9	26.2	20.9	17.7	17.3	7.7
合計	82.6	55.7	40.3	34.5	28.1	24.4	15.1

- 健康診断の結果、有所見労働者について、健康を保持するために必要な措置について、医師の意見を聞いていない。
 - 運転者について、1日の拘束時間が最長16時間を超え、1か月の時間外労働が36協定の上限を上回る120時間となっている者が見られた。
- ※ 労働基準監督署と地方運輸機関との相互通報

危険な3M

災害は、危険を予測できる「箇所や場所」
では起こりにくい

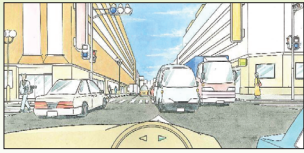
マサカ!
メッタニ!
そんな所マデ!

などの想定外で発生するのが世の常

交通危険予知訓練

毎日の運転業務に潜む

交通事故が発生するおそれのある要因



予知・予測

イラストや写真で

事前の対策を樹立

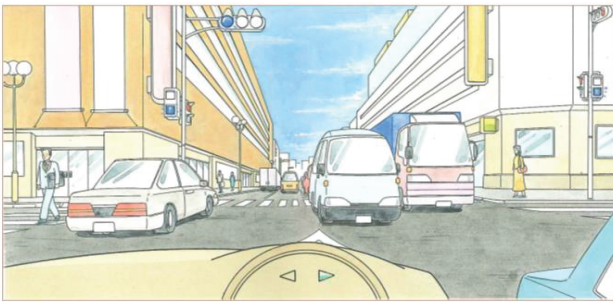
安全の先取り
運転に潜む危険から
身を守る

チーム運転行動目標を設定

危険予知訓練（KYT）の進めかた

準備・導入	(役割分担・危険予知シート配布・挨拶等)
第1ラウンド 現状把握	『どんな危険がひそんでいるか』 現状を認識し、問題点を把握する 「～なので(判断)～して(運転行動)～と (好ましくないもの)～なる(現象)」
第2ラウンド 本質追求	『これが危険のポイントだ』 問題点の本質(危険要因)を掘り下げる
第3ラウンド 対策の樹立	『あなたならどうする』 絞り込んだ問題点の対策を立てる
第4ラウンド 目標の設定	『私たちはこうする』 対策の中から最も大切な行動目標を設定 「～の時は～して～しよう ヨシ！」

どんな危険がひそんでいますか



対向車線が混雑している交差点を右折しようとしています

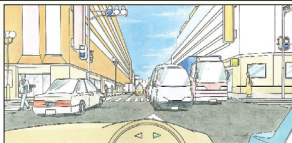
《1R 現状把握》《2R 本質追及》

(準備)	(役割分担・危険予知シート配布)
(導入)	(番号・挨拶・健康確認)
第1ラウンド	『どんな危険がひそんでいるか』
①	対向車線が渋滞で停止しているため、右折を開始したとき、対向車と歩道の間からバイクが直進してきて、接触する。
2.	対向車線の運転者が合図したので、右折したときに、横断歩道の自転車と接触する。
3.	対向車線が停止しているため、急いで右折したとき、横断歩道上の歩行者と接触する。
4.	自車が右折の際に歩行者が飛び出してきて急停車したので、後続車に追突される。



《3R 対策の樹立》《4R 目標の設定》

第3ラウンド	『あなたならどうする』
1.	一旦停止する。
2.	徐行する。
3.	進行方向の確認をする。
第4ラウンド	『目標の設定』
《チーム行動目標》	
「混雑している交差点を右折するときは、一旦停止して、進行方向の確認をし、徐行しながら右折しよう」 ヨシ！	



《確認》(3回呼称)
指差呼称項目
「一旦停止」 ヨシ！

KYTの考え方(効果)

- 危険パターンに対する『感受性』が鋭くなる。
危険を危険と気付かず、大丈夫?過信 → 潜む危険
個人レベルからチームレベルに高める。
- 『集中力』を高め、全員の積極的な話し合い。
さしそまっている危険要因について、全員の集中力を高め、『短時間のミーティング』を実践。
- 問題発見・解決能力が向上する。
『何が危ないか』『どう危ないか』『何がポイントか』
『どのように対応したら良いか』を本音で考え実践。

《安全確保の3種の神器》

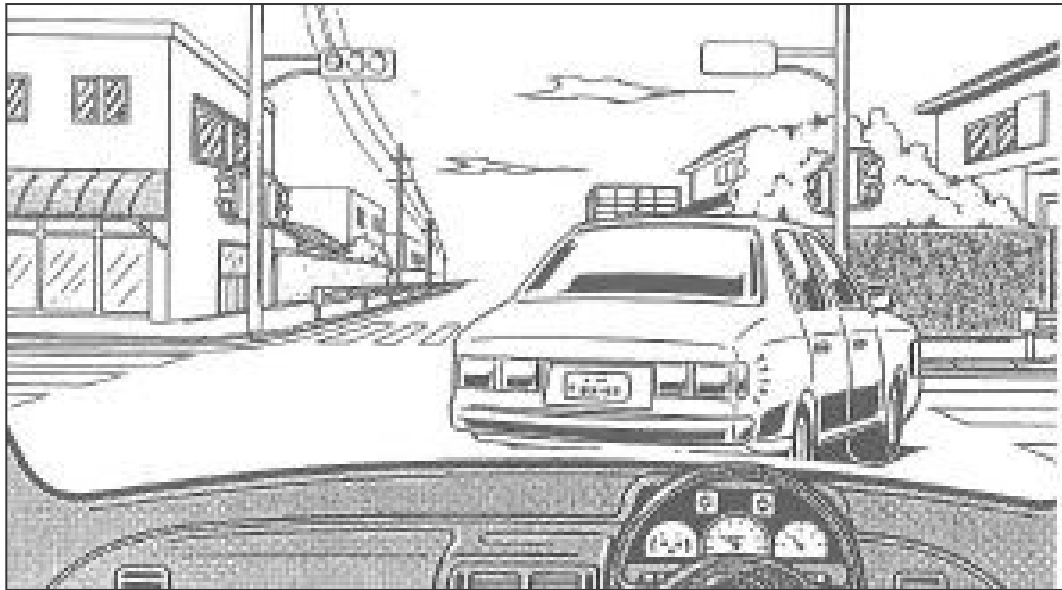
危険予知活動・ヒヤリハット活動、指差し呼称

交通KYT 基礎 4 ラウンド法の進め方

準備	(1) 役割分担 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 20%;">リーダー</td> <td>討議の司会・進行・時間等を管理。全員の発言をうながす。</td> </tr> <tr> <td>書記</td> <td>メンバーの発言を模造紙に手早く記入。(要約する必要はなし)</td> </tr> <tr> <td>発表者</td> <td>1R～4Rの結果を発表(読む)。</td> </tr> </table> (2) KYTシート・模造紙・レポート用紙を配布。		リーダー	討議の司会・進行・時間等を管理。全員の発言をうながす。	書記	メンバーの発言を模造紙に手早く記入。(要約する必要はなし)	発表者	1R～4Rの結果を発表(読む)。
リーダー	討議の司会・進行・時間等を管理。全員の発言をうながす。							
書記	メンバーの発言を模造紙に手早く記入。(要約する必要はなし)							
発表者	1R～4Rの結果を発表(読む)。							
導入	〔全員起立〕リーダー：話し合いに入る雰囲気作りをする。 「整列・番号」⇒「あいさつ」⇒「只今から交通KYTを始めます」⇒「健康確認」							
1 R	現状把握 <u>どんな危険が</u> <u>潜んでいるか</u> (3項目以上)	リーダー：シートの状況を読み上げ、どんな危険があるか問いかける。 “危険要因”と引き起こされる“現象(事故の型)”を全員で出し合う。 <判断・運転行動>・<好ましくない状態>+ <現象> 「～なので～して～と～する」						
2 R	本質追求 <u>これが危険の</u> <u>ポイントだ</u>	(1) 危険要因を掘り下げる。 判断・運転行動・好ましくない状態+現象(何とどうなる) 「～なので～して～と～する」と明確化する。 (2) 危険のポイントの整理。(そうだから危険のポイントだ!) ⇒重要項目に○印⇒危険のポイントを◎とアンダーラインを引く。						
3 R	対策の樹立 <u>あなたならど</u> <u>うする</u> (3項目程度)	危険のポイントに対して、対策を出し合う。 ◎項目に対し、「判断と運転行動」に対する具体的な実行可能な対策。 「～する。」 「～のときは～する。」と表現する。						
4 R	目標の設定 <u>私たちはこう</u> <u>する</u>	(1) 3Rの対策をしぼり込み、※印とアンダーラインを引く ⇒重点実施項目→チーム行動目標を設定(リーダー指導) 「～の時は～して～しよう ヨシ！」 (2) 指差唱和。 リーダーチーム行動目標：「～の時は～して～しよう ヨシ！」 ⇒全員「～の時は～して～しよう ヨシ！」 ◎指						
確認	指差呼称目標の設定 (確認目標を、確実に実行するための確認項目) リーダー：指差呼称「～ヨシ！」 → 全員「～ヨシ！」(3回) ◎指							
タッチアンドコール	リーダー「ゼロ災運転でいこうヨシ！」 → 全員「ゼロ災運転でいこうヨシ！」							
発表	発表者：1R～4Rの検討項目について読む。							

◎指：指差し呼称

「記入例」



あなたは、前方の乗用車に続いて交差点を右折しようとしています。

第1ラウンド（現状把握）

1. 信号が変わる前に早く曲がろうと、前車に接近して右折したので、ブレーキをかけた前車に、追突する。
2. 対向車が近づいてきたので前車と並進右折しようと、スピードを上げたので、前車の前方から出てきた歩行者と、ぶつかる。
3. 歩道に歩行者がいたので横断者を確認しようと、右側を見ながら曲がったので、直進してきた車と、ぶつかる。

交通危険予知訓練(KYT)模造紙

チーム名：	リーダー ○○	書記 ○○	発表者 ○○	討議者○○ ○○ ○○ ○○
〔1R〕現状把握（黒）			〔2R〕本質追求（赤）	
〔3R〕対策の樹立『あなたならどうする』				
1 <u>～なので</u> <u>～して</u> <u>～と</u> <u>～になる</u> (<u>～する</u>)			※1 <u>～する。</u>	
2 <u>～なので</u> <u>～して</u> <u>～と</u> <u>～になる</u> (<u>～する</u>)			2 <u>～して</u> <u>～する。</u>	
3 <u>～なので</u> <u>～して</u> <u>～と</u> <u>～になる</u> (<u>～する</u>)			3 <u>～のときは</u> <u>～する。</u>	
4 <u>～なので</u> <u>～して</u> <u>～と</u> <u>～になる</u> (<u>～する</u>)			4	
〔4R〕目標の設定『私達はこうする』				
1 Rでは3～4項目程度の危険な現状を出し合う。			「3R」の中で「そうだこれだ！」に※印とアンダーライン	
2 Rでは1 Rが下記項目となっているか内容を掘下げる。			「～するときは～して～しよう。ヨシ！」指差し呼称	
「判断」＋「運転行動」＋「障害物」＋「現象」			〔確認〕本日の行動目標を確認する。	
「危険な項目を明確に表現すること」これが最も重要！			『指差し呼称項目』を設定する。	
洗い出された項目から、「そうだこれが危険のポイントだ！」			「～ヨシ！」（リーダーの掛声で全員で3回唱和）	
を選んで赤で◎印とアンダーラインを付ける。			ゼロ災唱和 「今日も一日安全運転で行こうヨシ！」	

 交通場面の状況



- 1 冬の早朝、雪が残っている幹線道路を走行しています。
- 2 前方に逆駐車しているトラックを発見しました。

DATA ●時期:2月 ●時間帯:早朝 ●路面:凍結 ●天候:雨



さあこの時、あなたならどのような危険を予知しますか？
どのような危険が潜んでいるかと、どのような運転をすればよいかを考えてみましょう。

気付いたことを記入してください。

どのような危険が潜んでいるか

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

どのような運転をすればよいか

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

 交通場面の状況



- 1 比較的空いている幹線道路を走行しています。
- 2 前方を走る乗用車がスピードを落として停車しました。

DATA ●時期:11月 ●時間帯:夕方 ●路面:乾燥 ●天候:曇



さあこの時、あなたならどのような危険を予知しますか？
どのような危険が潜んでいるかと、どのような運転をすればよいかを考えてみましょう。

気付いたことを記入
してください。

どのような危険が潜んでいるか

どのような運転をすればよいか

 交通場面の状況

- 1 片側1車線道路を走行しています。
この先の交差点を右折する予定ですが、前方をバイクが走行しています。
- 2
- 3 この先の左側の駐車場からは車両が進入しようとしています。
- 4 交差点の右折の矢印信号が点灯しました。

DATA ●時期:3月 ●時間帯:昼間 ●路面:乾燥 ●天候:晴



さあこの時、あなたならどのような危険を予知しますか？
どのような危険が潜んでいるかと、どのような運転をすればよいかを考えてみましょう。

気付いたことを記入
してください。

どのような危険が潜んでいるか

どのような運転をすればよいか
